



広報活動における AI 活用

サイバーエージェントの AI 事業と社内での活用法

フジサンケイ広報フォーラム 12 月・月例会は、サイバーエージェント AI 事業本部 AI 広報室室長の田爪裕子氏を講師にお招きし、『広報活動における AI 活用』といったテーマでお話しをいただきました。

サイバーエージェントに入社後は広告営業などを経て 2014 年から AI 事業に携わっている。当社が AI 研究に取り組んだのは、主力事業である広告分野での活用を考えたからだ。広告制作プロセスに AI を使うことで、効果の高い広告を作成する確率が約 2 倍となり、AI デザイナーによる月間の制作効率も約 5.6 倍となった。AI タレントや、巨大 LED ウォールを設置した自社の撮影スタジオを活用することで、絵コンテやキャスティングなどの時間が大幅に短縮され、ロケハンなどの作業もほとんど不要になった。現在は研究組織の AILab を中心に言語や音声、CG やロボット活用、経済学などの研究に取り組んでいる。需要予測や価格設定、映像のハイライト制作やゲームやアニメ制作のプロセスなど多岐にわたって事業へと AI を活用し、各クライアントやユーザーの要望に沿うサービスを様々提供している。

当社創業者の藤田晋は「生成 AI を徹底活用する企業とそうではない企業で明確な差が出る」と話しており、サイバーエージェントは AI 時代においてもリーディングカンパニーを目指すと宣言している。そのためには、技術力の継続的な強化が必須だ。当社には連結で約 8000 人弱の従業員がいるが、約 4 割がエンジニアとクリエイターの技術者で、AI 研究者や機械学習エンジニア、データサイエンティスト等の AI 人材が多数在籍する。AI 研究者は約 100 名在籍し、そのうちの 6 割が博士号を持つ。現在の事業に係る研究開発に携わる傍ら、大学等の研究機関とも連携。国際会議で多くの論文が採択されるなど、未来の技術発展にも貢献している。

ChatGPT 登場後、2023 年の生成 AI 導入に際しては、当社内での生成 AI 徹底活用に向けてガイドラインを策定。正しくリスクを理解した上で、どんな業務に使えるかを全社員が考える機会としてアイデアコンテストを実施。実現性や問題点、実行インパクトなど徹底的に議論した。優勝案は、社内会議調整 AI だ。月間約 20 万件のスケジュール調整にかかる時間削減を見込んでおり、短縮された時間で本来の業務に注力できることになった。AI 利用による業務効率の改善によって、新事業の創出やサービスの質を高めることに主眼を置くとし、AI で人が不要になるのではなく、その分を質の向上に充てるということだ。

広報業務では、市場調査をはじめプレスリリースや Q&A 作成、リスクチェックやインタビュー作成などに AI を活用している。テキスト制作に長けた LLM (大規模言語モデル) は当社製を含めて、欧米各社が提供している。ChatGPT などの生成 AI 利用に当たっては、プロンプト (指示文) において①役割・指示 ②前提条件 ③制約条件 ④出力条件などを予め指定することがポイントだ。プロンプトを書く際には、新人の広報パーソンに噛んで含めるように教える姿勢が求められる。プロンプト作成には試行錯誤が必要だが、以後の作業効率は飛躍的に上がる。新しい AI も積極的に学んでいる最中であるが、AI 技術の進歩で個々人のスキルも向上すると考えている。



講演後の懇親会には講師の田爪様にもご参加いただき活発な意見交換をいただきました。